

1. 基本情報

基本目標	1	みんなで支え合い、未来につなぐまちづくり	担当部	福祉保健部
基本施策	5	社会保障制度の堅持		
単位施策名称	1	保険制度の安定した運営		
施策の方向性	●国民健康保険・医療制度などの周知と、収納促進、医療費の適正化に向けた啓発を推進するとともに、健全な運営を図ります。 ●介護保険のサービス給付費の増加を抑制するため、介護予防事業の充実を図ります。			

2. 施策目標（施策指標）

No.	目標指標	単位	区分	計画策定時の状況	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	中期目標(R2)
1	ジェネリック医薬品の数量シェア	%	目標値		56.0	62.0	68.0	74.0	80.0
			実績値	49.9	59.0	63.7	67.4		
			達成状況		達成	達成	未達成		
2	元気な後期高齢者の割合	%	目標値		73.9	73.9	74.0	74.0	74.0
			実績値	73.9	75.9	76.2	78.1		
			達成状況		達成	達成	達成		
3			目標値						
			実績値						
			達成状況						
4			目標値						
			実績値						
			達成状況						

3. 評価と対応方針（部長評価）

・分析

（施策目標達成・未達成の要因、前年度評価を踏まえた見直し状況、新たに発生した課題・環境変化等）

ジェネリック医薬品の数量シェアについては、医療機関の協力と広報により達成を続けてきましたが、平成30年度はわずかに目標に到達できませんでした。元気な後期高齢者の割合は、介護予防対策の施策である「地域支援事業」の充実により、地域全体で支えあいができていることによるものであると思われます。

・評価及び対応方針

ジェネリック医薬品の数量シェアについては、引き続き、医療機関の協力と広報の充実を図ります。また、元気な後期高齢者の割合については、介護予防対策の施策である「地域支援事業」の充実により、地域全体で支えあいを進めていきます。

作成担当部長 福祉保健部長 山西 仁子

4. 今後の展望（評価会議最終評価）

目標値未達成ですが、目標値到達率は80%を超えていることから、概ね達成と見なします。引き続き目標値の達成を目指し、現在の方向性で施策を継続することとします。

【参考】施策の推進に要したコスト

(単位:千円)

区分		No.	事業名称	事業費
施策の成果を 押し上げる 事業	事務 事業計画	1	国民健康保険健康保持増進普及事業	17,974
		2		
		3		
		4		
		5		
		6		
		7		
		8		
		9		
		10		
		11		
		12		
		13		
		14		
		15		
		16		
		17		
		18		
		19		
		20		
施策の成果を 維持する事業	財政 計画	1	国民健康保険特別会計繰出金（保険基盤安定制度）事業	212,761
		2	介護保険特別会計繰出金事業	531,683
		3	国民健康保険特別会計繰出金（事務費等）事業	133,252
		4	後期高齢者医療療養給付費負担金事業	499,622
		5	後期高齢者医療特別会計繰出金（事務費）事業	37,084
		6	後期高齢者医療特別会計繰出金（保険基盤安定制度）事業	87,642
		7	後期高齢者医療特別会計繰出金（健康診査等）事業	7,631
		8		
		9		
		10		
		11		
		12		
		13		
		14		
		15		
		16		
		17		
		18		
		19		
		20		
合計				1,527,649

平成30年度 事務事業評価シート（評価）

1. 基本情報

事務事業の名称	国民健康保険健康保持増進普及事業	事業番号	151101
担当部署名	福祉保健部 保険年金課、健康推進課		
政策体系			
基本目標	1 みんなで支え合い、未来につなぐまちづくり		
基本施策	5 社会保障制度の堅持		
単位施策	1 保険制度の安定した運営		

2. 事業概要

国民健康保険被保険者の健康保持のため人間ドックを行います。また、医療費の適正化を図るため、頻回・重複受診者への指導を実施するとともに、ジェネリック医薬品の利用啓発を行います。

3. 活動計画・活動実績

活動計画	活動実績
○ 国民健康保険の加入者に対し、人間ドック受診時の自己負担額の一部を助成します。（680人、年2回（春秋）実施） ○ レセプトデータから頻回・重複受診をしている人を抽出し、該当者に対し電話・訪問による健康相談を通して適正な受診を促します。 ○ レセプトデータからジェネリック医薬品の利用により医療費削減効果の高い人を抽出し、差額通知書を毎月送付することで、ジェネリック医薬品の利用を啓発します。	○ 国民健康保険の加入者に対し、人間ドック受診時の自己負担額の一部を助成しました。（507人、年2回（春秋）実施） ○ レセプトデータから頻回・重複受診をしている人を抽出し、該当者に対し電話・訪問による健康相談を通して適正な受診を促しました。 ○ レセプトデータからジェネリック医薬品の利用により医療費削減効果の高い人を抽出し、差額通知書を毎月送付することで、ジェネリック医薬品の利用を啓発しました。

4. 事業目標（事業指標）

No.	指標名称	単位	区分	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度
①	人間ドック受診者数	人	目標値	650	650	650	650	650
			実績値	636	554	507		
			達成状況	未達成	未達成	未達成		
②			目標値					
			実績値					
			達成状況					
③			目標値					
			実績値					
			達成状況					
④			目標値					
			実績値					
			達成状況					
指標の設定方法		生活習慣病の予防及び重症化抑制のため、人間ドック受診者数を指標としました。						

5. コスト情報

（単位：千円）

区分	事業費合計	財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	地方債	その他	一般財源
当初予算	23,321	0	23,321	0	0	0
決算	17,974	0	17,974	0	0	0

6. 評価と対応方針（課長評価）

・分析

（事業目標達成・未達成の要因、前年度評価を踏まえた見直し状況、新たに発生した課題・環境変化等）

4月、6月、11月と3回の募集を行いましたが無保険者数が年々減少していることに加え、平成30年度は70歳以上の被保険者が、無料でがん検診の受診が可能となり、特定健診と一緒に受診すると人間ドックの自己負担に比べて安価で受診ができることを周知したため、目標を下回る結果となりました。

・評価

事業効果	高	事業改善	高	今後の方向性	事業継続
------	---	------	---	--------	------

・評価を踏まえた対応方針

団塊の世代が後期高齢者医療へ移行し被保険者が減少していますが、必要な事業です。重複受診者等に健康相談を通し適正な受診を促します。

作成担当課長

保険年金課長 平岡 直美

7. 評価と対応方針（部長評価）

・分析

（事業目標達成・未達成の要因、前年度評価を踏まえた見直し状況、新たに発生した課題・環境変化等）

4月、6月、11月と3回の募集を行いましたが無保険者数が年々減少していることに加え、平成30年度は70歳以上の被保険者が、無料でがん検診の受診が可能となり、特定健診と一緒に受診すると人間ドックの自己負担に比べて安価で受診ができることを周知したため、目標を下回る結果となりました。

・評価

事業効果	高	事業改善	高	今後の方向性	事業継続
------	---	------	---	--------	------

・評価を踏まえた対応方針

団塊の世代が後期高齢者医療へ移行し被保険者が減少していますが、必要な事業です。重複受診者等に健康相談を通し適正な受診を促します。

作成担当部長

福祉保健部長 山西 仁子

8. 今後の展望（評価会議最終評価）

今後の方向性	事業継続
方向性を踏まえた今後の展望	目標値未達成です。国民健康保険の被保険者数は減少していますが、適正な受診を指導しつつ、事業を継続することとします。